

# 第 6 号

平成 25 年 2 月 発行

◆ 発行 ◆

渋川市小中学校 P T A 連絡協議会

◆ 印刷 ◆

(有) オ ン ダ 印 刷

# かけはし

ホームページアドレス <http://shibukawa-pta.jimdo.com/>



新生市P連~親・子・先生、一つになつて各地区に「心の橋」をかけよう。

## 親の願いとPTA役員

渋川市小中学校 P T A 連絡協議会  
会長 齋藤 隆 義



私たちは親の願いは子どもたちが立派に成長し、世の中に出ても「びと」の道から外れることなくしつかりと

社会貢献してくれることだと思います。現在 4 年生大学の就職率は 60% 前後まで落ち込んでいて、良い大学を出ても就職できるとは限らない社会になっています。就職難と言われていますが、実は企業が求めている人材が少ないからに他なりません。昨年三者連携推進協議会で講演いただいた千葉大学・明石要一教授のお話にもありました。ヒューマン・スキルが高い人材(人間関係を築くために必要な五つの能力・技術)が評価対象の重要なポイントになっているようです。そのベースになるのが、協調性・思いやる心・あいさつ・あきらめない心など、すなわち道徳感だと思っています。これらのことをしっかりと正し、しつこくしていくのは学校ではなく他ならぬ私たち親であると思います。そのためには親が行動で示し、気付かせることが大切になります。その一つとして学校や P T A 行事に積極的に参加することが、子どもたちにとって何よりもよい気づきの場になっているはず。P T A の役職を毛嫌いしている方が多いようですが、大半の役員さんが活動できていると聞いています。親が P T A 役員として学校・地域と関わり、その背中を見せることで子どもたちが自然と道徳感が高くなり、必ずプラスになっています。来年度以降積極的に P T A 役員をしたり行事に参加したりし、渋川の子どもたちのスキルを高めていきましょう。

おわりに各単 P の会長・女性代表、そして各学校の校長先生をはじめとする学校関係者の皆さまには 1 年間多大なるご協力をいただき心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

市 P 連は各単 P の「かけはし」にすぎませんが、なくてはならない組織です。今後

も有意義な組織運営と活発な事業に取り組んでいきますので、皆さまのご支援・ご協力を切にお願いしごあいさつとさせていただきます。

## 定期総会



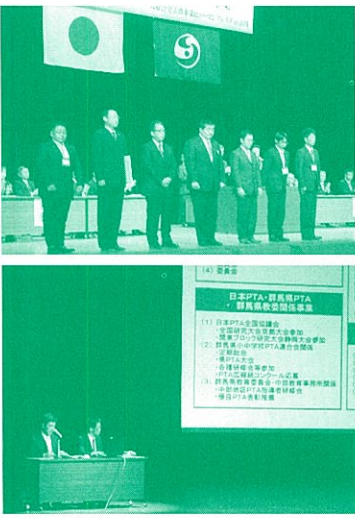
平成 24 年度市 P 連定期総会を 5 月 12 日にアネーリ渋川で開催しました。当日は阿久津市長、望月市議会議長、小林教育長をはじめ多数のご来賓のご臨席をいただきました。

議事では、平成 23 年度の事業報告、決算報告及び監査報告がなされ、全会一致で承認されました。引き続き規約の廃止及びび会則の制定、平成 24 年度の役員、事業計画、予算が審議され、全会一致で決議されました。

## 平成 24 年度 渋川市小中学校 P T A 大会

11 月 4 日、市民会館で渋川市小中学校 P T A 大会を「しぶかわ市民教育の日」と共催して実施しました。「しぶかわ市民教育の日」は毎年子ども関連団体と連携して企画されています。今年度は、市 P 連活動を広く市民に周知し、活動への理解を深めようと、市 P 大会と共催となりました。当日は、阿久津市長、望月市議会議長、小林教育長をはじめ多くのご来賓のご臨席をいただきました。

小林教育長と齋藤会長から退任された前



## 生きてるだけで百点満点!

伊香保中学校保健委員会の講演会に参加しました。講師は県助産師会会長の鈴木せい子先生で、演題は「生きてるだけで百点満点」。優しく穏やかな口調にすっかり引き込まれ、時間がたつのを忘れるほどでした。

今の子どもは「こんな家に生まれなければよかった」「死んだ方がましだ」と思う子どもが多いとのこと。そんな子どもたちに「生まれてくることはすごいことなんだよ。お母さんも命懸けて生んだし、あなた自身もがんばったから生まれてきたんだよ」と伝えてあげたいそうです。「お母さんのお腹の中で、生みたい気持ちと生まれてくるのが、ものすごい確率で一致したときにあなたが授かり生まれてきたんだから、頭が悪くても、運動が苦手でも生きてるだけで百点満点なんだよ」とのことでした。

我が子のことを重ねて聞くうちに思わず涙が…。まん丸としたお顔で笑顔が素敵な鈴木先生の講話は本当に感動し、子どもの誕生を振り返るよいきっかけとなりました。みなさんも機会がありましたら、ぜひ聞いてみてはいかがでしょうか。

## 講演会

人権啓発活動事業「ヒューマン・フエスタ in 渋川」と共催



11 月 4 日、市 P T A 大会後、人権啓発活動事業「ヒューマン・フエスタ in 渋川」と共催し講演会を開催しました。「みんなので支える尊い命」と題し、アイドルグループ・シブがき隊の元メンバーで俳優の布川敏和氏が講演を行いました。

講演では、家族の話、また、うつ病を克服した経験が話されました。うつ病は誰でもかかる心の病といいますが、本人はもとより近くで支えた家族はたいへん辛い思いをされたと思います。

忙しい芸能活動とあわせて、地球環境保護活動や病気と闘う子どもとその家族を支援する活動をしている話に、非常に感銘を受けました。家庭では良き夫、良き父親、そして子どもたちと触れ合うときは、良き友だち。人との結びつきがかけがえのないものだと感じさせる講演でした。

## 受賞者一覧

### 感謝状 49 名 (敬称略・順不同)

佐藤光芳・岸可津美(渋川南小)、瀧澤順哉・末益寿江(豊秋小)、兵藤祐美子(渋川中)、外丸綾子(渋川北中)、武田照一・藤垣素子(渋川西小)、土田猛・伸澤恭子(渋川北中)、石川久洋・田村美奈(金島小)、西山志津子・大竹佳子(金島中)、儘田清・依田由美子(古巻小)、中野茂雄・茅野真実(古巻中)、内海英明(伊香保小)、小林悟(伊香保中)、小野和則・佐藤佳代子(小野上小)、野村誠・佐藤真弓(小野上中)、荒木忠・羽鳥明美(上白井小)、福島香絵(中郷小)、角田三芳・西山一美(長尾小)、石坂浩一・後藤ヨシ子(子持中)、木暮明・桜井めぐみ(三原田小)、角田光徳・齋藤広美(刀川小)、中村義仁・須田友子(赤城南中)、谷津礼示・田子尚代(津久田小)、久保田庄一・石田和江(南雲小)、大島学・木暮勝代(赤城北中)、飯田裕子・柳岡徹美(橋小)、都丸実・高山桂子(橋北小)、田中肇・藤井緑(北橋中)

### 表彰状 5 名 (敬称略・順不同)

根岸一之(渋川南小)、林美奈子・加藤弥生(金島中)、田中慎一郎・永田美花(伊香保小)

年度単 P 会長と女性代表へ感謝状を、P T A 活動に功労のあった方々に表彰状を贈呈しました。また、今回は、P T A 会員以外の方も大会に出席していることから、総務委員会です P 連活動紹介を行いました。市 P 連の目的である、児童生徒の幸福な成長や単 P の発展の促進を図るための研修や委員会活動について発表しました。

今年度受賞者の方々には次のおおりに受賞された皆さま、大変おめでとうござい

# 教育懇談会



7月12日に市役所第二庁舎で、市P連役員と各単P会長が小林巳喜夫教育長を囲んで教育懇談会を開催しました。この教育懇談会は、5年前に市が合併したときに始まったもので、ざつとばらんに意見交換できる素晴らしい機会です。

懇談会では「スクールバスの運用」、「通学路の安全確保」、「ゆとり教育の成果や反省点」、「いじめ」をテーマに意見交換が行われました。スクールバスの運用に関しては、徒歩区間の高低差や実際の距離で判断し、また、タウンバスや路線バスを活用し地域の実情に合わせて運用しつつあることが分かりました。通学路の安全確保では、各学校にある「安全マップ」を全PTA会員で見直しをかけてみて、自治会や老人会、その他地域の方の意見も伺いながら改善箇所を取りまとめ、行政に働きかけることが重要であること、まず自分たちで動くことが大事であることが分かりました。市でも安全確保に努めていることが分かりました。ゆとり教育の成果や反省点では、少人数指導や複数担任制を定着できたことなどを成果として挙げ、反省点としては総合的な学習で、ほかの教科ではできない授業を目指したが、理想と現実のギャップがあったことが分かりました。教育にとつて大事なことは、「やる気をどう育むか、生きる力をどう育てるか、子どもが目を輝かせ飛びついてくる授業をいかに作っていくか」であり、永遠の課題であり目標として取り組んでいただいていることが分かりました。また、福井県が学力、体力ともに全国トップクラスなことにふれ、家族や地域の本来あるべき姿、ふつうの環境をいかに作っていくかが、群馬県がトップになるために必要なことである、とお話いただきました。いじめの問題では、毎月学校でアンケートを実施し、現場に反映させていることを伺いました。ネット社会でいじめがますます陰湿化している中で、いじめを解決するために努力いただいていることも確認できました。

教育委員会や学校で取り組みが多岐にわたって

実施され、子どもたちのやる気や明るい笑顔のために尽力いただいていることを改めて確認することができ、また、意見も多数聞いていただき、有意義な懇談会となりました。

# ソフトバレーボール大会



秋晴れのなか、恒例のソフトバレーボール大会が10月21日に行われました。精鋭2チーム編成で優勝めざし臨んだ単Pや教職員を混ぜてざりざりの人数で参加した単Pなど26チームが参戦し、汗だくになりながら試合が進みました。

予選リーグでは順当にぶつつけ本番の単Pはふるい落とされ、練習を積んだ単Pと運動神経に優れた単Pが決勝トーナメントへと進みました。見事優勝に輝いたのは長尾小PTA、準優勝には渋川北中PTAが入りました。おめでとうございます。

会長から「長尾小PTAはバレー部かと思つた」「渋川北中PTAは年齢の割にがんばつた」との賛辞がありました。今年から予選後に交流戦を行い、歓声や笑い声が絶えない一日となりました。大きなケガもなく和気あいあいの楽しい時間を過ごせてPTA役員一同感謝しています。来年も多くの皆さんの参加をお待ちしています。

# ソフトバレーボール大会競技成績

**優勝** 長尾小PTA  
**準優勝** 渋川北中PTA  
決勝トーナメント進出  
渋川南小、渋川中、小野上中、赤城南中  
交流戦コート1位  
渋川北小、金島小、古巻小、伊香保中



優勝した長尾小PTAのみなさんです。

# 日本PTA全国研究大会

## 京都大会 報告

8月24・25日

市P連顧問 根岸 一之(渋川南小) 大会スローガン「いのち ところ ゆめ」を伝えよう つなげよう 育もう」と題し京都の地で開催されました。

分科会の京都市単Pの活動報告では、地域連携が密にとれていて、幅広い活動内容に驚きを感じました。京都は、PTA活動や役割が5つのテーマで構成され、すべての会員がこのテーマを目標に活動しているようでした。

〈5つのテーマ〉

- \*子どもの「いのち」を育むPTA
- \*親(P)と先生(T)が手をつなぎ(A) 地域社会全体で(C) 子どもを抱きしめる(H)、PTA活動「P-t-a-c-h」
- \*親子の会話で「こころ」が触れ合う家庭をつくるPTA活動
- \*自立と自律のできる子どもを育むPTA活動
- \*楽しく、ためになり、元気のでるPTA活動

この基礎があるからこそ教育方針がぶれることなく、子どもの健やかな育ちの環境づくりにつながるのではないかと感じました。特に「楽しく、ためになり、元気のでるPTA活動」は全国共通と実感しています。我々の活動は、子どものためであると同時に、大人たちが学び、懇親を深め、活動を充実することで自らの活力につなげているのではないかと思います。

記念講演では、歌手の加藤登紀子氏が歌を交えた講演をされました。自分の生い立ちや復興支援先での出会い、また、暖かく子どもたちを見守ってほしいという私たち親へのメッセージなど、伝えきれないほどの数々のお話でした。今回の大会では「すべてのPTA会員は地域の垣根を越えて一つである」ということを実感した大会でした。

# 日本PTA関東ブロック研究大会

## 静岡大会 報告

10月19・20日

市P連副会長 福田 光 治(渋川西小) 私は広報・ITをテーマにした分科会に参加しました。『着地点を見失わない誌面づくりのため

# 編集後記

「かけはし」も回を重ねること6回目の発行を迎えました。これを読んだ時、1年間の市P活動を懐かしく思われることではないでしょうか。この市P連の活動がこれからのPTA活動の一助になればと願っています。また、昨年からホームページを立ち上げました。様々な市P連活動を始めとし、単P活動も掲載しています。「かけはし」同様、ご愛顧をお願いします。

# ～ 広報委員 ～

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 高橋 範行(古巻中)  | 石田 正美(南雲小)  |
| 設楽 雅之(豊秋小)  | 齋藤 章吉(伊香保中) |
| 生方 正彦(上白井小) | 葛上 文夫(子持中)  |
| 須田 克利(刀川小)  | 井野 恒夫(橘小)   |

「保護者目線」に「保護者目線」に満載の、読まれる広報紙づくりを開校3年目でコンクール全国トップ、その「流儀」という2事例の研究発表がありました。紙面作りについて、2校とも、読みやすい紙面を誰にでも作れるようにと、普及率の高いワードを使ってレイアウトを組んでいました。また、PTA広報紙は学校と保護者と子ども、そして地域との相互理解という、大きな、やりがいのある役割を担っているのにもかかわらず、保護者に軽視されがちであると訴えていました。「手にとってもらう」「隅々まで読んでもらう」、その鍵は「保護者目線」にあるとのこと。全国トップとなった広報作成の秘訣は、記事に味付けをしない、他人任せにせず自分で取材、等。「楽しんで工夫を凝らしたりして完成した紙面は、必ず読者に伝わるモノがある」と確信した、との報告でした。今回の静岡大会で得たものは非常に大きく、熱くPTA活動をしている多くの方々がいるのに驚かされた大会でした。

